

関税・外国為替等審議会 関税分科会 海外調査報告 (韓国)

令和 6 年10月10日

- 本報告書の文中の意見にわたる部分については、個人的な見解も含まれており、必ずしも各国当局等の公式な見解等ではない場合がある。
- 本報告書は、原則、現地調査を実施した令和6年5月時点の情報等を基に作成されたもの。

韓国調査報告 概要

調査行程

- 日 程 : 令和6年5月13日～5月15日
- 訪 問 先 : プサン（釜山港）
インチョン（仁川港、仁川空港）
- 出張委員 : 森田朗（東京大学名誉教授）
根本敏則（敬愛大学経済学部教授）



写真：釜山港湾公社広報館

主な報告ポイント

- グローバル・ハブである釜山港の中で、現在、釜山市街から約25km離れている新港において大規模な港湾開発が進められている。隣接地に新たに建設中の国際空港と新港をつなげることでシー＆エアの物流サービスを可能とすることを目指している。後背地には大型FTZを設け、財政支援等により日本をはじめとする外資系企業を多数誘致し、コンテナ貨物の集貨・創貨に成功している。
- 今回視察に訪れた釜山新港のドンウォン・グローバル・ターミナルや仁川港の税関統合検査センター、仁川空港の国際郵便物流センターをはじめとする物流施設・税関検査場では、人手不足への対応や安全性の確保等の観点から全体的に先端技術を用いたオートメーション化が進められている。
- 海上特送物流センターや国際郵便物流センター、空港旅具の通関にあたっては全量X線検査が行われている。他方、コンテナ検査センターの設備を含む検査対象貨物に対する処理プロセスはおおむね日本で行われているものと同様であることが確認された。

釜山港 ： 釜山港新港

- 釜山港は韓国最大の港であり、コンテナ取り扱い数は約2,300万TEU（半分がトランシップコンテナ）にのぼり、国際基幹航路の大型コンテナ船が寄港するグローバル・ハブ港となっている。
- 釜山港新港には、大型FTZが立地しており、令和6年5月時点で71の企業施設が立地している。

1 - 1. 釜山港新港

(1) 新港概要

- 釜山港の中では新港と北港が主要コンテナターミナルとなっており、新港は釜山全体の約70%、北港は約30%のコンテナを取り扱っている。新港は釜山市街から約25km離れていることから、開発の余地が大きく巨大な施設を作ることができることを強みとしている。
- 釜山港で積み替えられるトランシップコンテナ（コンテナの最初の船積国、最終の船卸国が韓国ではない）の比率は51%。日本の国際コンテナ戦略港湾（京浜港・阪神港）の比率は1.0%。
- 近隣の国際空港が2030年頃に完成予定となっており、釜山港とつなげる事で、シー & エアの物流サービスが可能となる。釜山港新港に運び込まれた貨物は93%が車両により輸送されているが、今後、一度に多量の貨物の運送が可能な鉄道の利用を増やしていく予定である。



写真：釜山港港湾

(2) FTZ（Free Trade Zone：自由貿易地域 = 保税地域 + 各種優遇措置）について

- 釜山港新港はグローバル・ハブ港としてトランシップ取り扱い数の増加を目指しており、企業が通関規制や関税に対する優遇措置を受ける事が出来るFTZに多くの外国企業を誘致している。進出企業の約半数の40社程度が日系企業である。
- 釜山港新港のFTZは、港湾の至近に立地しているという利便性に加え、外資系企業を積極的に誘致するために韓国政府による財政的支援も充実させている。非常に低廉な賃料（1 m²あたり365ウォン（35円程度））で土地を提供している事に加え、進出企業には法人税・所得税を減免する等、税制優遇措置も取られている。

釜山港 ：ドンウォン・グローバル・ターミナル、新港指定蔵置場

- ドンウォン・グローバル・ターミナルは、釜山港新港に立地し、リモート操作又は自動でコンテナの積み卸し等の作業を行うことが出来る施設を持つターミナル。
- 釜山税関新港指定蔵置場は、検査・監視の必要があるものとして選別された管理対象貨物の検査を行うための施設。

1－2．ドンウォン・グローバル・ターミナル

- ・ 安全性を確保する観点からコンテナの搬出工程は全て人が立ち入らずに完結する仕組みを導入している。
- ・ 船舶からコンテナを降ろす工程はリモートで操作されるクレーンを用いて行われ、コンテナはAGV（Automatic Guided Vehicle）でヤードに仮置きされ、その後、門型クレーンでトラックに自動積載。
- ・ 将来のコンテナ船大型化を見込んで、水深23mの岸壁を整備中。
- ・ 環境への配慮の観点から二酸化炭素の排出量を削減するため、これらの輸送機械の動力には電力を採用している。



写真：ドンウォン・グローバル・ターミナル

1－3．釜山税関新港指定蔵置場

- ・ 管理対象貨物には、即時検査貨物・X線検査貨物・搬入後の検査貨物・輸入申告後の検査貨物の4種類に区分され、釜山税関新港指定蔵置場は即時検査貨物・X線検査貨物を取り扱う施設となっている。
- ・ 入港した貨物は、マニフェスト提出後に税関検査チームによって管理対象貨物に該当するか否か選定される。X線検査貨物に選定された場合、大型X線検査をかけて異常があれば、指定蔵置場に搬入され、開披検査される。即時検査貨物に選定された場合には、直接指定蔵置場に搬入され、開披検査される。

仁川港 ： 仁川税関統合検査センター

- 仁川港に散乱していた既存の税関検査施設を統合する形で設立され、2019年から2023年の工事を経て、本年4月に運用が開始されている。
- 当センターは「海上特送物流センター」「コンテナ検査センター」「指定蔵置場（リスク貨物の検査場）」で構成されている（今回は「海上特送物流センター」「コンテナ検査センター」を視察）。

2－1．海上特送物流センター

- ・ 仁川港に搬入された海上特送貨物（SP貨物）を取り扱っており、施設の新設に伴い、X線検査機器を既存の6機から11機に拡大し、貨物情報やX線画像を基に職員が登録した取扱指示（検査要否）に基づき自動仕分けを行う、自動分類システムを導入。
- ・ 貨物の検査の流れについて、バーコードリーダーによる申告情報の読み取りおよび全量X線検査をベルトコンベア上で一貫して行っている。
- ・ 情報の読み取りおよびX線検査により検査対象となった貨物は同建物の別フロアに移され、そこで開披検査が行われる。



写真：仁川税関特送物流センター

2－2．コンテナ検査センター

- ・ 前頁の1－3．に記載の管理対象貨物のうち「X線検査貨物」となったものについて検査を行っている。2台の大型X線検査装置を有しており、コンテナごとX線検査を行う。検査の画像については、室内にて職員が確認しており、異常が認められた場合は隣接する「指定蔵置場」にて開披検査を実施する。



写真：仁川税関コンテナ検査センター

仁川空港：国際郵便物流センター、旅具検査

- 国際郵便物流センターは、日本の外国郵便出張所にあたる機構であり、韓国国内には仁川と釜山の2箇所に設置されている（郵便物全体のうち99%は仁川で処理されている）。
- 空港旅具検査では、原則として「携帯品申告書」の提出が省略されており、水際取締においては受託手荷物への全量X線検査や情報の活用にウェイトが置かれている。

3－1．国際郵便物流センター

- ・ 2023年は2,700万件の郵便物を取り扱っている。
- ・ 貨物の流れについては、種類別（書状や小包等）に分けられた後、ベルトコンベアに載せたままバーコード読み取りや全量X線検査を実施する。X線検査の前に麻薬探知犬による検査も実施。
- ・ 仁川空港の国際郵便物流センターでは2023年に434件、233.2kgの不正薬物を摘発している。

3－2．旅具検査

- ・ ソーティング場にはターンテーブル毎にX線検査装置を備えており、受託手荷物に対しては全量X線検査（一部を除いて二次元）を行っている。X線を通して禁制品や課税物品の存在が判明すれば電子タグを付し、自主的な申告を慫慂。近年の摘発は、全量X線検査を逃れることを意図したハンドキャリーによるものが占める割合が増えている。
- ・ 2023年5月から、税関申告物品を有しない旅行者による「携帯品申告書」の提出が省略されているところ、税関業務への影響として、以前より申告件数が減少しているものの、検査率はおおむね維持されている。